

稚桜神社(わかざくらじんじゃ)

校区(こうく)の東、池ノ内の集落(しゅうらく)の東の小高い丘(おか)にあります。磐余稚桜宮跡(いわれわかざくらのみやあと)ともいわれています。出雲色男命(いずもしこおのみこと)、去来穂別命(いざほわけのみこと)、氣息長足姫命(おきながたらしひめのみこと)という神様がまつられています。

天皇(てんのう)が、池に船(ふね)をうかべて食事していると、食器の中に季節(きせつ)外れの桜(さくら)の花びらが入りました。それを見た天皇が、めずらしいことだと喜(よろこ)んでこのような名前をつけたといわれています。



神社鳥稚桜居(とりい)



境内(けいだい)